＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670600172
法人名	有限会社　ふれあい
事業所名	グループホーム　　ポンタ
訪問調査日	平成20年7月26日
評価確定日	平成20年9月10日
評価機関名	特定非営利活動法人ＮＰＯさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]
　ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
　確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
　「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族　　＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価確定日（平成20年9月10日）

1．評価結果概要表

作成日　平成20年8月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4670600172
法人名	有限会社　ふれあい
事業所名	グループホーム　ポンタ
所在地	阿久根市赤瀬川４２９５ （電　話）０９９６-７３-４３４８

評価機関名	特定非営利活動法人　ＮＰＯさつま		
所在地	鹿児島市下荒田２丁目４８－１３		
訪問調査日	平成20年7月26日	評価確定日	平成20年9月10日

【情報提供票より】（20年　6月　1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　16　年　5　月　25　日		
ユニット数	ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	9　人	常勤　6 人，非常勤　3　人，常勤換算	5.45　人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋　造り
	1 階建ての　1 階　～　階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	31,800　円		その他の経費（月額）		円
敷　金	有（　円）	(無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無		有／無
食材料費	朝食	円	昼食		円
	夕食	円	おやつ		円
	または1日当たり　870　円				

（4）利用者の概要（　6月　1日現在）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	1	名	要介護2	2	名	
要介護3	1	名	要介護4	3	名	
要介護5	2	名	要支援2		名	
年齢　平均	83.4 歳	最低	66　歳	最高	94 歳	

（5）協力医療機関

協力医療機関名	内山病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは開口部を広く取り日当たり、風通しのよい木つくりの建物であり、利用者は落ち着いた快適な生活ができる。阿久根大島を望む海岸線が広がる散歩コースにも恵まれ、季節の花壇、野菜畑もホームの生活環境向上に役立っている。看護師経験をもつ職員も多く医療機関との連携も充実しており利用者・家族の安心感につながっている。また家族会は定期的に開催され、利用者の生活、身体、精神状況を報告し、家族の思いを十分に聞く機会となっている。地域の高齢者のグループとも慣れ親しんだ交流をもっており、地域と一体となった見守りと支援体制がとられ、質の良いサービスの提供がなされている。

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

市町村との連携は市の担当者と行き来する機会をつくり、運営、サービスについて相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。職員を育てる取り組みは研修に参加する機会を増やし、定期的に学習会をもってトレーニングしていく事を進めている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価はケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえ、全員で取り組んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

定期的に運営推進会議を開催し、利用者の状況、地域との取り組み、評価への取り組みを報告している。また、参加者からの活発な意見をもらいサービスの向上に活かしている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族との関係つくりを大切にし、面会時や家族会、運営推進会議などで家族の思い、意見を聞いている。出された意見、要望はミーティングで話し合い、運営に反映している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域の一員としてなかよし会（婦人会）、保育園児とのふれあいを大事に、地区のお祭りなど各種行事、活動に参加している。地域との交流会を定期的に開催したり、中学校・看護学生の職場体験学習の場にもなっている。

2．評価結果（詳細）

（ ▨ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々とのつながりを大切にし、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域密着型サービスとして、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで日常のケアが理念に基づいた実践につながっているか、意識付けを行っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間行事計画を挙げて地域の一員として仲良し会（婦人会）お祭りなど各種行事、活動に参加している。定期的に保育園児との交流を開催したり、中学校、看護学生の職場体験学習も受け入れている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえ、全員で行っている。外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて話し合い、サービス向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、利用者の状況、地域の取り組み、評価の取り組みを報告している。また、参加者からも活発な意見をもらい、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にもホームでの行事に参加してもらい、市の担当者に運営、サービスについて相談しながらサービスの向上に取り組んでいる。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会を定期的に開催し、ホームでの出来事、職員の状況、利用者の個々の様子を担当者より細かく報告している。遠方の家族には毎月、手紙で報告している。金銭管理は立て替えのシステムをとり、領収証のコピーにて請求処理されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方との関係つくりを大切にし、面会時や家族会、運営推進会議などで家族の思い、意見を聞いている。出された意見要望などはミーティングで話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者、家族などとのなじみの関係を重要視したケアを心がけている。運営者の自宅が近くにあり、職員の精神的負担が軽減され、働きやすい環境で離職が極力抑えられている。利用者へのダメージを防ぐ配慮が出来ている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に学習会を行っている。研修には積極的に参加し、報告している。発表後は研修資料を閲覧できるよう保存して全職員の共有を図っている。	○	研修の中で全職員が共有できるマニュアルの充実を図ることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、同業者との意見交換を行いケアに活かしている。他の事業所と合同で行事を行い、職員、利用者の交流を持っている。また、ある事業所とは2ヵ月に1回意見交換会をもっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に面接し、説明、見学してもらい納得して入居となる。1ヵ月は本人の生活を見ながらなじめるよう対応している。日常的に地域の人との関わりをもって信頼関係を築いて不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩であるという認識を職員全員が共有している。利用者から生活の知恵、技を学び、また、利用者が活躍できる場面を工夫、セッティングしながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人ひとりの思いや意向の把握に努める対話を心がけている。また、家族からの情報や利用者の行動、表情からも察知するように努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	全職員でケアプラン、モニタリングなどカンファレンスの中で意見交換を行い、家族の思いや意見、要望を反映した本人本意の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見、要望を取り入れ、期間終了する前に見直しをしている。状態変化に応じてその都度見直しをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の送迎、個々の外出の送迎など柔軟に対応している。また、利用者の家族の宿泊も可能である。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より、終末期の話をし、家族の思いを聞いている。重度化や終末期に対しては家族、医師、看護師、職員を交えて話し合い共有している。ホームが支援できる指針を作成している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため、尊厳への配慮について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損なわないように声かけや対応に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日の過ごし方（食事、起床、昼寝、レクリエーション、散歩、就寝）は、本人が決めている。利用者の心身の状態に留意しながら本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕食のメニューは利用者に声かけして決めている。材料の下ごしらえや、味見、食器洗いなど、出来る事をしてもらう場面作りを行っている。職員も一緒に楽しく食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決められているが利用者の希望や身体状況に合わせて支援している。入浴を拒む利用者には時間を経て誘ったり、職員をかえて声かけしたりして気持ちよく入浴できるよう支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が活躍できる場面（筍、つわの皮むき、園芸など）を作り、もてる力を発揮できるよう、メリハリのある日常生活が送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望、体調を考慮しながら散歩、買い物、ドライブなどに出かけている。また、外食や喫茶店に行ったり公園や海にお弁当持参で出かけ、閉じこもらない支援に努めている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームはオープンにし、玄関・テラスは開放している。見守りを重視し外出願望の利用者には職員が同行し、安全に自由な暮らしが出来るように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、近燐も一緒に避難、防災訓練を行っている。災害時に備えての備蓄は検討中で、夜間の避難訓練は計画中である。	○	地域消防団との連携・構築を望む。災害時の備蓄、夜間の避難訓練実施に期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の記録と週1回体重測定を行っている。管理栄養士に栄養バランスをチェックしてもらっている。身体状況に合わせてきざみ食にするなど柔軟な対応をしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は外の光が最大限入る作りになっていて明るく、木のあたたかみがやさしい共用空間である。広々と窓を開放し、気持ちよい環境で、一日の大半をここで過ごす利用者に最高の配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口は障子張りのドアで心地よい。季節感のあるカレンダー、誕生日の写真入の色紙など、その人らしく安心して過ごせる、個性を尊重した居室になっている。		